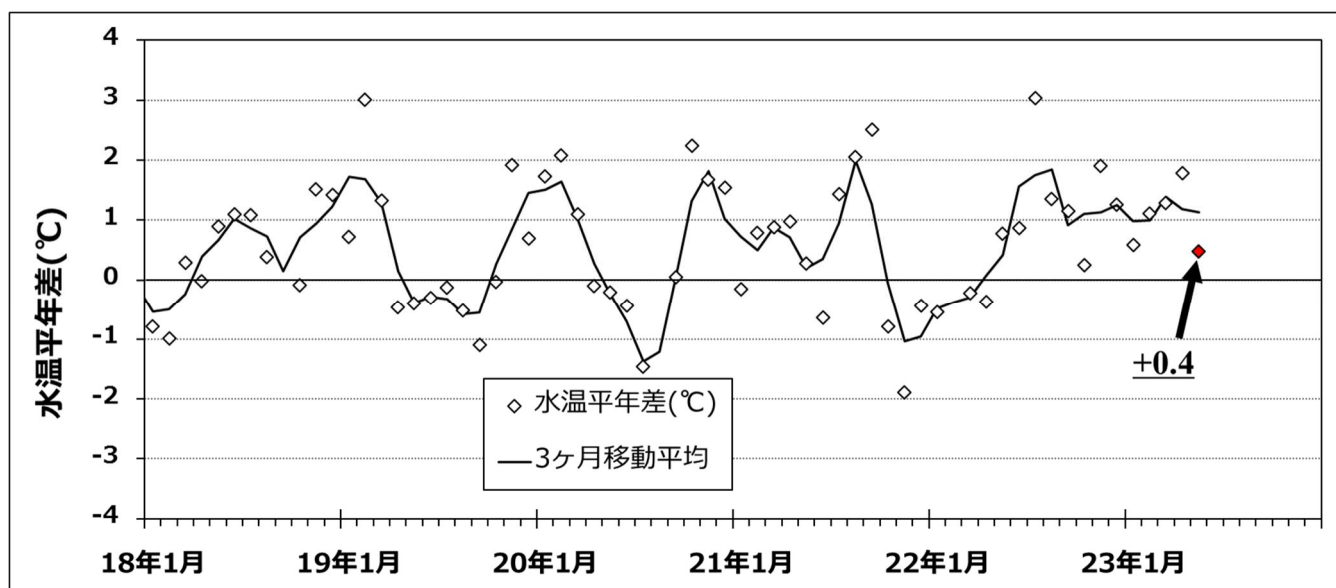


## 【水温の変動】

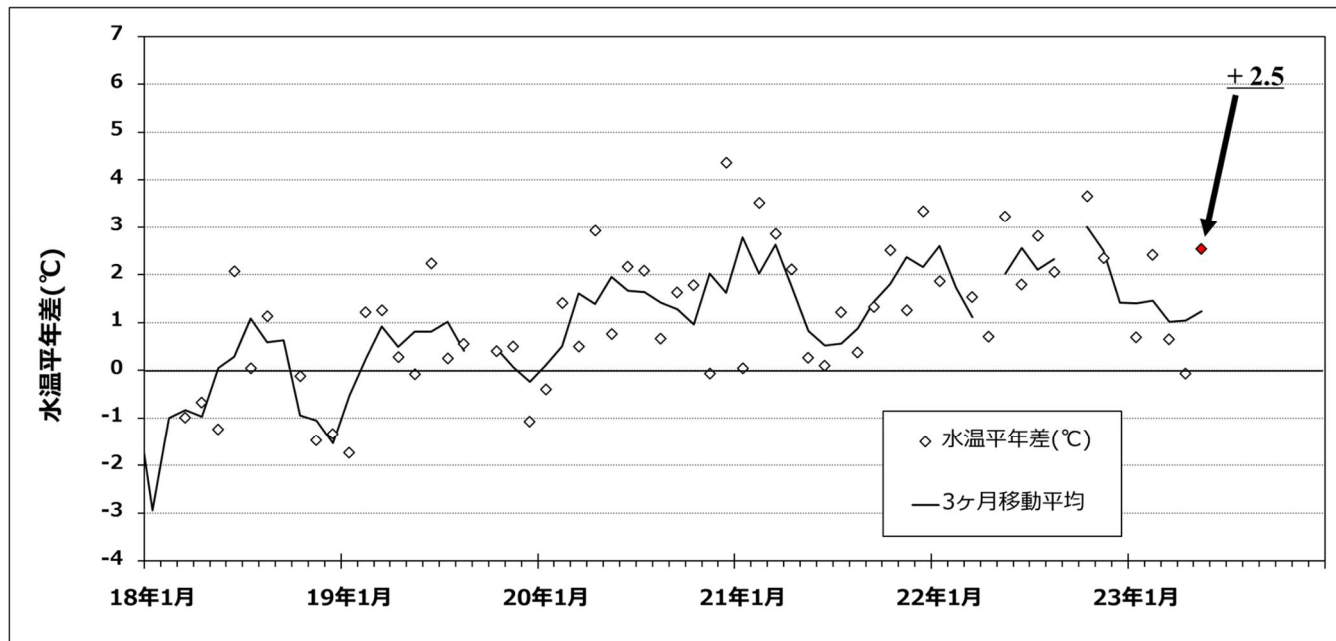
5月11、12日に調査船海幸丸により渥美外海の観測を実施しました。

湾口部では平年差+0.4°Cで平年並みとなっています。沖合域の水深200mでは平年差+2.5°Cで極めて高めとなっています。5月11日の人工衛星画像によると、黒潮は潮岬沖北緯31度付近から大王崎沖北緯34度付近まで北上するAs型流路となっています。熊野灘から遠州灘の沖合は接近する黒潮本流の影響により高温傾向が続いています。

### 湾口部表層（A1）における水温平年差の変動



### 沖合域水深200m（A4, A12, A19の平均）における水温平年差の変動



※水温平年差は過去10年平均値との差

## 【渥美外海の海況】

湾口部から渥美外海にかけての水温は、表層で 17.8~22.9℃となっており、黒潮本流が接近している影響で沖へ向かうほど高温傾向となっています。水温の鉛直断面図によると、高水温の水塊が沖合域の表層に分布し、沿岸へ波及しています。また、沖合の等温線が沖へ向けて高くなっており、東向きへ流れていることが伺えます。クロロフィル a 濃度は、A1 と A10 の間の表層にピークがみられ、沖合の水深 50m 付近も比較的高くなっています。

水温の水平分布図と水温, 塩分, 密度, クロロフィル a 濃度の鉛直断面図

